

夫婦・カップルにおける性的な話題をめぐる葛藤
——カップル向けコミュニケーションカードの利用者への調査から——

岡田 玖美子 (奈良女子大学)

研究背景と目的

近年、性行為をめぐる相互の意思を事前に確認しあう「性的同意」の重要性が、政府や教育機関などによって周知されている。しかし、性的な話題は一般にタブー視されやすく、個人の極めてパーソナルな部分に関わるがゆえにセンシティブなものでもある。たとえ夫婦やカップルなどの親密な関係であっても、あるいは親密な関係であるからこそ、性的な話題について話し合うことには困難が伴うことが想定される。他方で、とくに 1990 年代以降、コミュニケーションとしての性行為の重要性が高まっていることが指摘されており (e.g. 赤川 1999; パッハー 2022)、「セックスレス」などの状況はそれ自体コミュニケーション不全として問題視されうる。

このような性行為についての語りにくさとコミュニケーションの必要性の狭間で、夫婦・カップルたちが性的な話題についてパートナーと語ることをめぐって、どのような葛藤を抱えているのかを探索的に示すことが本報告の目的である。

研究方法

インタビュー調査の事前調査として、2025 年 3 月に 2 種類のカップル向けのコミュニケーションカードの利用者 (全国の 20~50 代の男女) を対象に、カードの制作会社を通じて、パートナー関係および性的な関わりに関する Web 質問紙調査 (n=138) を実施した。このカードは、カップルが普段は話しにくい話題について、簡単な質問が書かれたカードをランダムに引いて回答しあうことで対話を促進することを目的とした商品である。そのため、パートナー関係や性的な関わりについて関心や悩みを抱えた人が調査協力者にも多い。本報告ではデータの概要を示しつつ、とくに性的な話題に関する考えや状況についての自由記述回答の分析結果を示す。

結果

多くの回答者が性的な話題は「話し合いにくい」という感覚・認識を有する一方で、「もっと話し合いたい」という考えをもっていた。話し合いにくさの理由としては、おもに恥ずかしさ、相手に引かれたくないこと、話す機会や時間の不足が示された。もっと話したいと考える理由については、性的関わり自体に「幸せ」や「大事なこと」、「尊いこと」などと価値を見いだす意見のほか、互いの満足を高めたり、逆に不満を回避したりするためという考えも比較的多くあった。互いの性的満足感の向上は、ひいては「よい関係」や「よいコミュニケーション」に結び付けられており、関係における重大な要素として位置づけられていることが読み取れた。他方で、相手のことをより知りたい、本音を聞きたいなどといった、より深い開示のために話し合いを望む意見や、「マナー」や「恋人らしさ」の喪失、「女性として見られなくなることを怖れることから話し合いを望む意見もあった。

考察

以上より、性的な話題については、恥ずかしさや話すことで相手にどう思われるかという懸念が抵抗感につながっている。そのなかでたとえ恋人や配偶者であっても、時間的・心理的・関係上の余裕がなければ、話し合いづらい状況も読み取れた。また、話し合うことの必要性は感じつつも、その理由には必ずしも性的な合意形成をめざすようなポジティブなものだけではなく、性的関わりをめぐる不安感や相手が不満を感じていないかを怖れる意識も含まれていた。したがって、パッハー (2022) が「性的主体性の無さ」と指摘したほどではなくても、現状では、たとえ今回の回答者のようなパートナーシップやコミュニケーション改善に関心や問題意識を有している人びとであっても、性的な関わりやそのことについてパートナーと話し合うことについては、「コミュニケーション」に至るまでの課題が複数あることがわかった。

(キーワード: 性関係、コミュニケーション、夫婦・カップル)